

# 2020 年度 課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：歯科医療情報における交換・連携に関する研究会

設置期間：2019/04-2022/03

代表幹事の氏名・所属：玉川 裕夫・大阪大学大学院歯学研究科

幹事の氏名・所属：森本 徳明・矯正歯科 森本  
佐々木好幸・東京医科歯科大学  
齊藤 孝親・日本大学松戸歯学部  
鈴木 一郎・新潟大学医歯学総合病院  
永松 浩・九州歯科大学

活動成果の概要：

当課題研究会では、歯科領域の標準化の取組みを中心とした活動に継続して参画しており、厚生労働省で検討されてきた”口腔診査情報標準コード”（資料1 口腔診査情報標準コード\_Ver101）の策定に関わってきた。その結果、2021年3月26日付で”口腔診査情報標準コード”が厚生労働省標準規格に採用され、大きな一歩を進めることができた。以下に、2020年度の活動について報告する。

## 1) 第40回医療情報学連合大会

2020年11月19日から22日にかけて、浜松市で開催された第40回医療情報学連合大会では、公募企画シンポジウムとして”歯科医療の変曲点で我々はなにをなすべきか”を開催した。本研究会の森本徳明と永松 浩がオーガナイザーおよび座長をつとめ、日本歯科医師会からの演者をはじめ4名の演者による講演と参加者とのディスカッションが行われた。演題名、演者ならびに内容は、添付資料（資料2 JCMI40thシンポジウム）のとおりである。

## 2) 大学病院情報マネジメント部門連絡会議

2021年1月28日から29日にかけて、福井市での現地参加とWebのハイブリッド形式で開催された令和2年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議では、大会趣旨の”医療情報システムのコストベネフィットとは”に対応した歯科セッションを持った。演題名、演者ならびに内容は、添付資料（資料3 歯科セッション抄録）のと

おりである。

### 3) 厚生労働省実証事業

2020年度の厚生労働省実証事業の名称は、「歯科情報の新たな利活用にかかる実証事業等」で、株式会社NTTデータが受託している。本実証事業では、口腔診査情報コードの標準化作業を一步進めて、生前データとして歯科診療情報を収集した場合の現実的な課題とその解決策を検討し、報告書を公開した（資料4 歯科情報の利活用推進事業（歯科診療情報による身元確認のためのデータベースに関する検証等）に係る検証事業）。

2021年2月28日には、「令和2年度歯科情報の標準化に関する研修会」をWeb形式で開催した。このコード策定に尽力された医療情報システム開発センター理事長の山本隆一先生、東北大震災をきっかけに歯科診療の標準化に携わってこられた東北大学理事・副学長の青木孝文先生とともに、本課題研究会の玉川裕夫が演者を務めた。研修会の冒頭、厚生労働省ならびに歯科医師会からも挨拶があり、歯科関係のベンダ各社の参加もあったことから、今後の普及を促進することができたと考えられる。研修会の講演者、講演内容は、添付の資料5 歯科情報の標準化に関する研修会の動画を参照先とした。

### 4) 標準歯科病名マスターと標準歯式コード仕様

本課題研究会のメンバーは、一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）の歯科分野の標準化委員会の委員として、厚生労働省規格となっている標準歯科病名マスター（HS013）と標準歯式コード仕様（HS033）のメンテナンスに継続して関与している。

資料1（口腔診査情報標準コード\_Ver101）

<https://www.jda.or.jp/jda/business/pdf/Oral-examination-Information-Standard-Code.pdf>

資料2（第40回医療情報学連合大会共同企画詳細抄録）

資料3（令和2年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議 歯科セッション抄録）

資料4（歯科情報の利活用推進事業（歯科診療情報による身元確認のためのデータベースに関する検証等）に係る検証事業一式報告書）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000770815.pdf>

資料5（令和2年度歯科情報の標準化に関する研修会）

<https://www.jda.or.jp/dentist/program/business-r02.html>

[雑誌論文] 計4件

- 1) ICT の活用による、離島・中山間地域の歯科医療体制の可能性についてーICT は僻地歯科医療の救世主になれるのかー；澄川裕之（(医) 里山会澄川歯科医院／匹見歯科診療所）、医療情報学 40(Suppl.)、355-357、2020.
- 2) ビックデータを活かした歯科医療のこれから：基礎研究から産学連携まで；野崎一徳(大阪大学歯学部附属病院医療情報室)、医療情報学 40(Suppl.)、358-359、2020.
- 3) 歯科医療の変曲点で我々はなにをなすべきかー医科歯科連携に関する取り組みと今後の課題ー；新美奏恵(新潟大学医歯学総合病院医療連携口腔管理治療部)、医療情報学 40(Suppl.)、360-364、2020.
- 4) オンライン資格確認システム等の導入について；宇佐美伸治(日本歯科医師会)、医療情報学 40(Suppl.)、365-366、2020.

[学会発表] 計1件

- 1) 文書発行業務から始める歯科診療現場のDX；井田有亮(東京大学大学院医学系研究科 課題解決型高度医療経営人材育成PG)、令和2年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2021、福井.

[その他] 計2件

- 1) 令和2年度歯科情報の標準化に関する研修会、主催；株式会社エヌ・ティ・ティ データ、後援；公益社団法人日本歯科医師会
- 2) プレスリリース、日本歯科医師会作成「口腔診査情報標準コード仕様」が厚生労働省標準規格に採用、日本歯科医師会、令和3年3月29日版.